

ダミノジット剤を用いたシクラメンの矮化処理による省力・高品質栽培技術	
【要約】シクラメンの葉組みや鉢広げ作業を軽減できる矮化剤（ダミノジット剤、商品名：キクエモン）が農薬適用拡大され、200～300 倍の茎葉散布処理で矮化効果が期待できる。200 倍処理において散布条件により軽度の薬害が生じる可能性があり使用上の注意を要する。	
中山間農業研究所 中津川支所	【連絡先】 0573-68-2036

【背景・ねらい】

シクラメンの栽培管理に要する労力の低減（省力化）と低コスト生産技術の開発が望まれていることから、葉組みや鉢広げ作業を軽減できるコンパクトなシクラメンを栽培するための矮化剤処理技術を開発する。ここでは矮化剤としてダミノジット剤（商品名：キクエモン）を供試し、効率的な利用技術を開発する。

【成果の内容・特徴】

- 1 平成 26 年及び 27 年の当所及び他県での試験により、当剤のシクラメンへの矮化効果が認められ平成 28 年に農薬適用拡大がなされた（農林水産省登録 第 22004 号）。
- 2 本剤をシクラメンの生育期（6～11 月）に、希釈倍率 200～300 倍で株全体に茎葉散布（1～3 回）することで矮化効果があり、処理濃度が高く、処理回数が多いほど矮化効果は高まる（図 1）。
- 3 200 倍処理では散布条件により軽微な薬害が生じる可能性がある（図 2）。薬害は高温下で発生率が高まる傾向にあるが、送風等で迅速に乾燥させることで薬害が軽減できる。また、低温下では発生率は低下し、少量散布でさらに薬害を低減できる（表 1）。

【成果の活用・留意点】

- 1 シクラメンの生育盛期に処理することで、矮化剤処理の効果を高めることができ、複数回処理することでも効果が高まるため、狙いたい草姿に合わせて希釈濃度と処理回数を調整する。
- 2 200 倍処理では軽度の薬害が生じる可能性があること、高温期ほど薬害が生じやすいこと、低温期でも処理液量が多いと薬害の発生率が高まることに注意が必要である。
- 3 当試験結果は中輪 F 1 シクラメン品種「A S P 1」のデータである。他の品種では効果の程度が異なることがある。

【具体的データ】

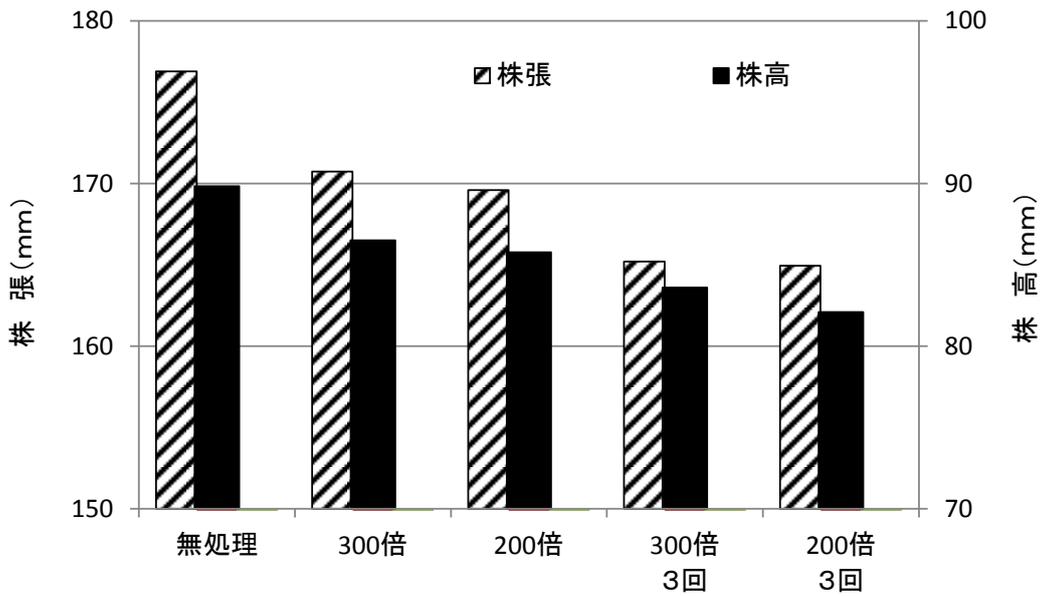


図1 株張と株高に及ぼすダミノジット剤処理の影響 (平成 27 年 11 月)



図2 シクラメン葉に生じたダミノジット剤 200 倍液散布による薬害 (平成 27 年 11 月)
(葉下部の葉先枯れと葉の中央部のケロイド症状部分)

表1 ダミノジット剤 200 倍処理での薬害発生個体数 (平成 28 年 11 月)

処 理 区	無処理	8月23日処理			11月7日処理		
		1ml	1ml 強制乾燥	3ml	1ml 13°C	3ml 13°C	3ml 26°C
薬害発生個体数 (鉢/12鉢)	0	6	3	7	1	7	1

研究課題名：シクラメン等鉢花の新品種育成と栽培技術の確立 (平成 24~28 年度)

研究担当者：浅野 正